

カリキュラムポリシー

嵯峨美術大学 芸術学部

1. 「芸術の力」の探究

素材や技法を前にして潜在する可能性を見出す驚き、創造の根源に存する生命からの発揚力、目の前の活動に自らを賭け、没入することで引き出される創作意欲と能力、相互の発信と実際行動を通じて開かれたコミュニティーを構築する能力の養成を通じて、自らの思考力を高めて自律的に人間の本来持つ創造性を探究するためのカリキュラムを編成する。

2. 教養教育と専門教育のバランスと思考力育成

広義の芸術学と教養教育（リベラル・アーツ）とが普遍的な学知を探究する学問であるという特徴を共有するとの認識に立ち、教養教育と専門教育の両面において思考力育成を重視した教育体制を整備する。

3. キャリア教育の位置づけ

多岐にわたる学生の進路に応じ、広く就業力、学士力と呼ばれる汎用的能力や自己有用感や生涯学習への意欲等の学生の情意面の充実に力を入れた指導を行う。また、広く世界の社会事象、文化事象に批判力を向けた上で、活動成果を情報発信する情報リテラシー教育においても科目群の充実を図る。

4. 地域連携教育の充実

本学の立地する京都、嵯峨の豊かな歴史的、文化的資産から美意識やデザインの本質を理論的に学びつつ、地域からデザイン・モチーフや研究テーマを発掘し、地域性を超えた普遍的価値の創造をめざす地域連携教育を展開する。

5. 学生による主体的な学習構築を可能とする柔軟な履修制度

従来特定専門領域に閉じられていた学びのうち、他領域の学生との共有が可能な学びを「オープン演習」という選択科目枠で提供することで、学生が単一の専門領域に視野を限定せず、履修プランを自律的に構築できる柔軟性あるカリキュラム制度を運用する。

嵯峨美術大学 大学院

芸術研究科修士課程は、以下の考え方に基づき、カリキュラムを編成する。

- A：広く文化芸術に関する理解を持つとともに、問いや課題を発見し、それに取り組む方法を身につける
- B：自身の研究を社会の中で実践的に活用する能力を養う
- C：研究を実践的に推進するための高度な専門的知識や技術を習得する

嵯峨美術短期大学 美術学科

現代に生きる社会人としての基礎的な教養と、芸術文化に対する広い視野を持って社会に貢献できる専門的素養を身に付けるために、段階的に学べるカリキュラムを構成する。

そのために以下の科目群を設置する。

- ・一般教育科目：専門知識に片寄らない広範な教養を身につけ、豊かな人間形成を目指す
- ・専門教育科目：各分野・領域に必要な専門知識およびコミュニケーション力を身につける
- ・展開科目：より幅広い人間形成を目的とする
- ・選択演習科目：所属分野・領域に関わらず、さまざまな表現の習得を目的とする
- ・専門演習科目および専門実習科目：所属分野・領域の必修科目として設定する

嵯峨美術短期大学 専攻科

現代に生きる社会人としての基礎的な教養と、芸術文化に対する広い視野を持って社会に貢献できる専門的素養を身に付けるために、段階的に学べるカリキュラムを構成する。

そのために以下の科目群を設置する。

- ・各専攻共通科目：広範な教養と専門的な知識を身につける
- ・専攻別専門科目：実習を中心とした授業で、所属専攻の必修科目として設定する